

伏見ぐるかるた大会で、地元の魅力が題材のかるたを取り合う児童たち(京都市伏見区・区総合庁舎)



伏見ぐるかるた「はい！」

児童大会、29人が競う

伏見の観光名所や歴史文化を歌にした「伏見ぐるかるた大会」が11日、京都市伏見区総合庁舎で開かれた。地域の児童が伏見稲荷大社や深草うちわが描かれたかるたを見つめ、読み上げと同時によく取り合った。

住んでいる街の魅力を子どもに伝えていくと、伏見工業高の生徒が歌と絵柄を考案したかるたを使い、同区の稲荷繁栄会が主催した。4回目を迎えた今年度は小学生29人が参加し、個人戦と3人1組の団体戦で競った。

高校生が読み上げる「紫陽花でにきわら社や藤森」「鳥居のトンネル続くよ稲

荷大社」などの歌に、児童が「はい！」と素早く手を伸ばし、競って手を伸ばし合った個人と団体の両方で優勝した稲荷小5年の山賀愛莉さん(11)は「友達と一緒に練習してきた。伏見の良いところを知って好きになれた」と喜んでいた。(高元昭典)